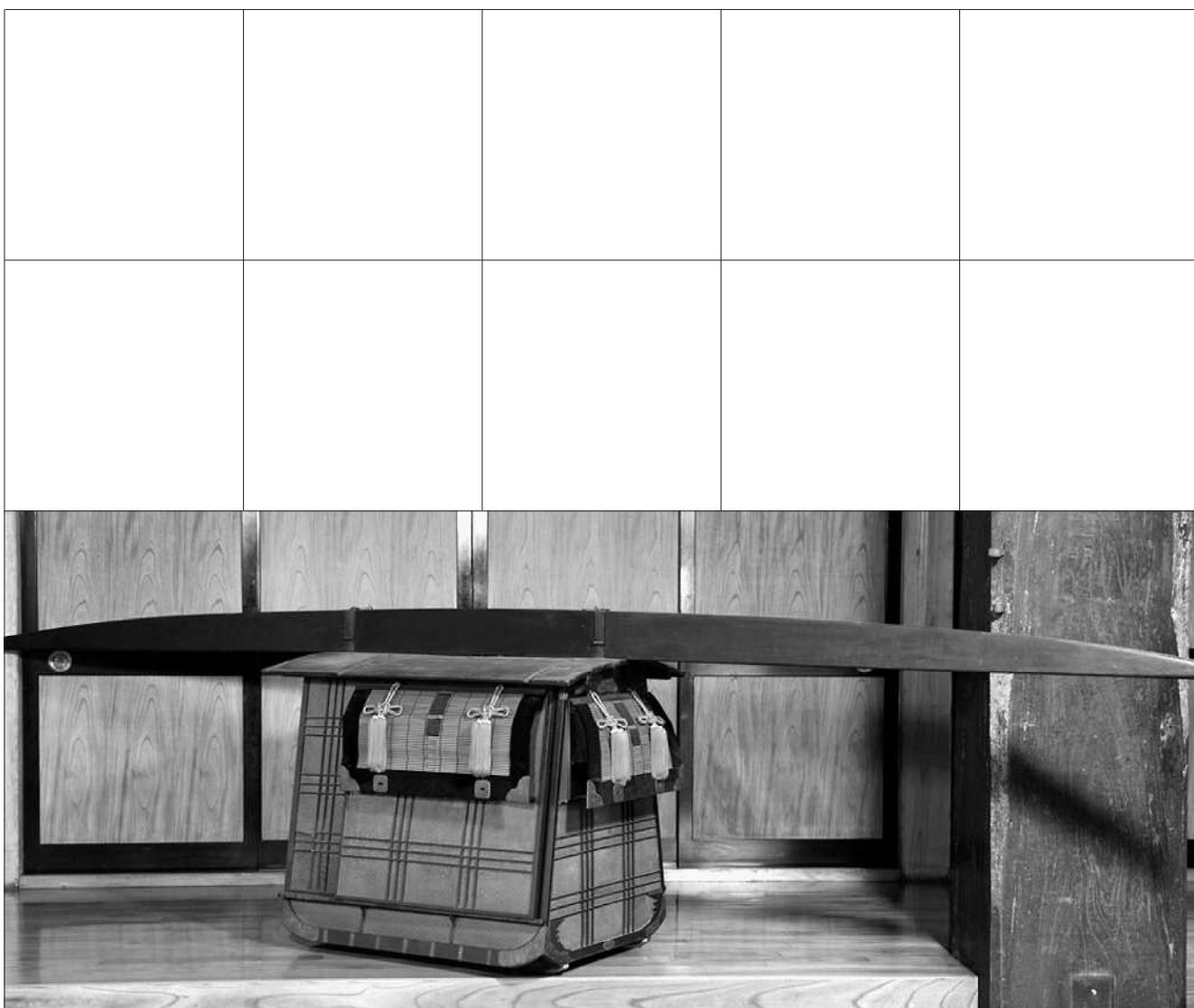


練馬区のあらし

1	地勢	8
2	歴史	10
3	人口	11
4	気象	18

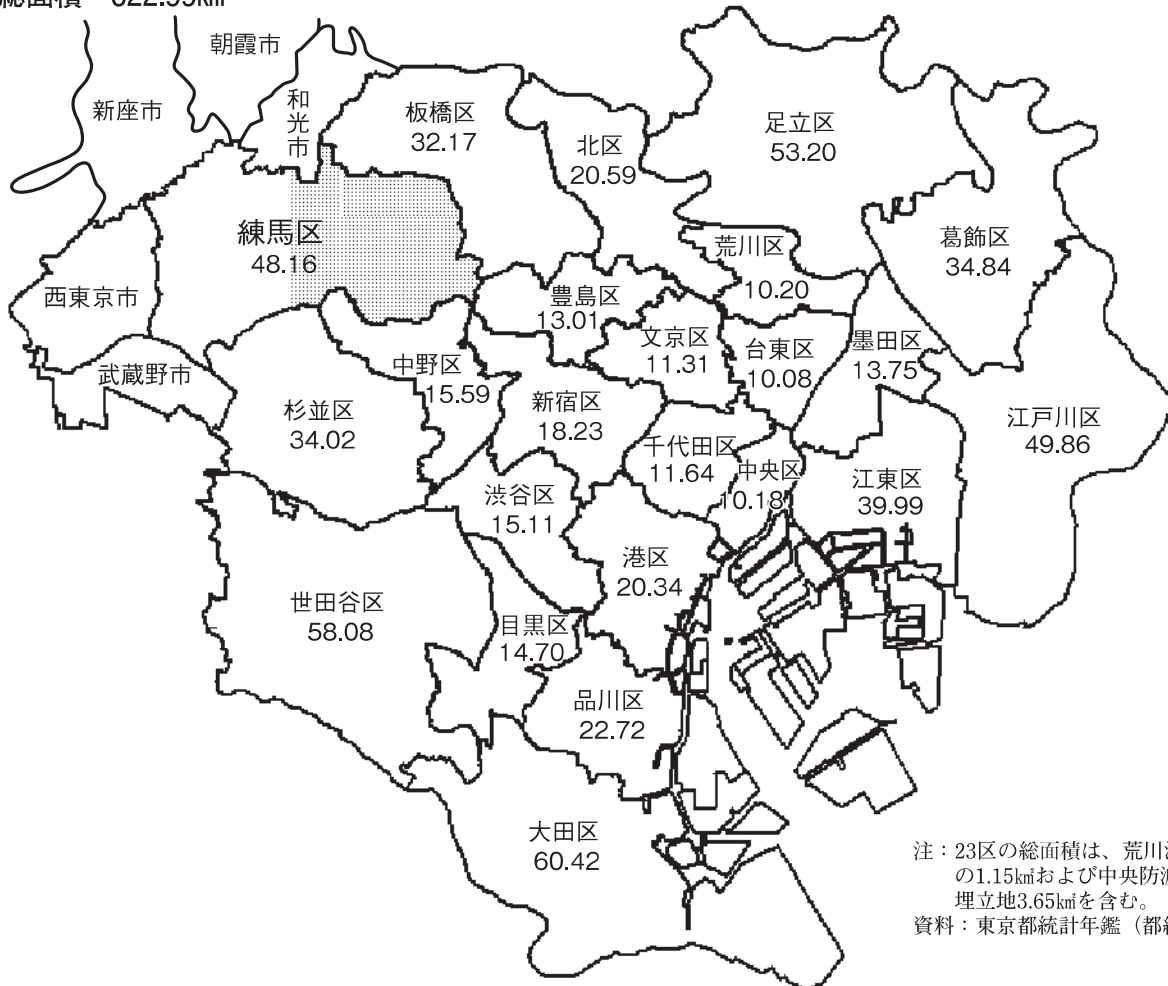


区登録文化財 みょうふくじ 妙福寺の駕籠 かご

1 地 勢

23区の位置と面積（単位：km²）
23区の総面積 622.99km²

平成24年10月1日現在



●位置、面積

練馬区は、東京都23区の北西部に位置し、北東から南にかけては板橋区、豊島区、中野区、杉並区に接し、西から南西にかけては西東京市、武蔵野市との境をもち、北は埼玉県の新座市、朝霞市、和光市に接している。

経・緯度で見ると、東経139度33分48秒～139度40分48秒、北緯35度42分41秒～35度46分41秒に位置している。

なお、練馬区役所の位置は、東経139度39分8秒、北緯35度44分11秒である。

一方、練馬区は面積は48.16km²で東西約10km、南北約4～7kmのほぼ長方形である。東京都の総面積2188.67km²に対し、練馬区はその約2.2%、23区の総面積622.99km²に対し約7.7%に当たり、23区の中では大田区、世田谷区、足立区、江戸川区に次いで5番目の広さである。

●地 形

練馬区は、ほとんど高低差のないなだらかな地形を

している。

地盤高で見ると、西側が高く東側へ行くにつれて低くなっている。水準基標によると、関町北四丁目（石神井高校内）では海拔54.03m、羽沢三丁目（開進第四中学校内）では海拔26.04mとなり、平均すると、30～50m程度の起伏の少ない台地状となっている（資料：東京都土木技術支援・人材育成センター 平成23年水準基標測量成果表）。

この台地は武蔵野台地といわれる洪積台地である。

●地 質

練馬区の地質は、地質年代から見ると比較的新しい時代に形成された地層で、台地は洪積層、低地は沖積層からなっている。

洪積層は、上部の関東ローム層、中部の粘土砂の互層、下部の砂礫（されき）層から構成されている。この台地の洪積層と、低地の沖積層の基盤になっているのが第三紀層である。

武蔵野台地の表面は、ローム層で厚く覆われていて水を得ることができないが、ローム層の下には粘土と

町名図

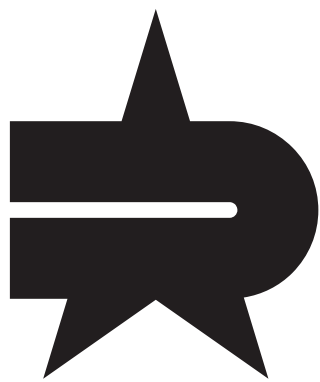


小石の累層があって、水を含んでおり、そうした層が谷の底、谷の側壁、段丘の崖（がけ）の下などに露出して湧水（ゆうすい）となる。三宝寺池、富士見池や井頭池（弁天池）は、こうした湧水からできた池である（資料：昭和44年練馬区地下水調査報告書）。

●地名の由来

「ねりま」という地名の由来には、○関東ローム層の赤土を黏ったところを「黏場」といった、○石神井川流域の低地の奥まったところに沼＝「根沼」が多かった、○奈良時代、武蔵国に「乗瀦」という宿駅があった、○中世、豊島氏の家臣に馬術の名人がおり、馬を馴らすことを「ねる」といった、などの諸説があり、定説はない。

●区の紋章



練馬区が平和で、健康で、明るいまちに発展していくようにという願いをこめて、昭和28年12月に制定された。

この紋章は、ネリマの「ネ」の字と「馬のひづめ」を組み合わせ、図案化したものである。

●区の花と木



区の花 ツツジ



区の木 コブシ

美しい花と豊かなみどりの、住みよいまちづくりを進めるために、区のシンボルとなる花と木を区民から公募し、昭和46年4月、花には「ツツジ」、木には「コブシ」を選定した。